

「日常の幸せを分かちあえるようになります。」  
土淵中学校三年 佐々木 光咲

盛岡の良さは、私達が「日常」と感じている、人々の「相手の気持ちに寄り添う」温かい心があるといつ所だと思います。私の住んでいる土淵地域では、昔から農業が盛んで、野菜や米などのお土産を分けた地域の人々同士で沢山行われています。受け取った人が笑顔になり、こちらもうれしい気持ちになりました。この盛岡で育った私は、それ

を当たり前のことだなと感じていました。しかし、テレビで貧しい国の番組を見たとき、こんなに大変な人いるのか、何かしてあげないと、と感じ、「おすそ分けの大切さについて深く考えようになりました。私が番組を見たとき、貧しい国の子供達がボランティアの方から食べ物を受け取ると、パツ」と表情に花が咲いたのです。そこには、盛岡のおすそ分けにあたる相手への思いやり、助け合いの気持ちがありました。

岩手は、東日本大震災で大きな被害を

受けました。震災当時私は保育園に通っていましたので知りませんでしたが、後から、当時の中学生が物資を届けたり、被災地を元気づけるために訪問したりしていったという事実がありました。困難な状況の中、相手と思う様な行動が「おすそ分け」と同じといふことに気づきました。これをき、かけに、盛岡の人々の復興を願う気持ちと相手への思いやりを持った温かい心が、貧しい国々の人々を助けられるとと思いつつ、次のよつた活動を提案します。

盛岡市の中学校が主体となり、まずは小さな規模から募金活動を始め、小学校、高校へと活動の幅を広げ、参加していただきます。その活動の中で、たた募金を募るのではなく、参加していただいた方に世界の状況を伝わり、くいかと思います。そこで、美味しいご飯が食べられるごとに、学校に通えるごとに、日常の中にある当たり前が本当に「幸せ」なことで、

それが叶わない人々もいるのだという事実を強く呼びかけ、日々の何気ない幸せと、世界の状況に目を向けてもらえるようにします。そうすることとて、この活動を通して世界に関する心を持つてくれる人が増えてくれると思います。先ほど募金が集まり、貧しい国々へ物資を届けることができれば、世界に、盛岡に住む人々の良さである、相手の気持ちに寄り添う、温かい心へを発信していくことからきるのだと考えます。

なってほしいというのが私の一番の思いでです。  
将来、相手に幸せな気持ちになつてもらえる  
ような、そんな人になれるよう、私はこれ  
からも、世界を考え続けます。